



たいしも通信

年末年始が比較的穏やかで油断していましたが、2月に入り本來の寒さや雪が襲来して縮こまっている今日この頃ですが、皆様お変わりありませんか。とはいって西日本の我々にとつて、雪で困るといつても北日本在住の方からすると、薄皮のよくな雪でガタガタ騒ぐな、と叱られてしまいそうな気もします（個人的に被害を被っている方がおられましたら申し訳ありません）。そんな我々の強い味方、ということで、今回は防衛関連ニュース第16弾、自衛隊が取り組む除雪作業についてお送りいたします。

◆青森県に対する災害派遣概要

青森県知事は「命に関わる危機が目前に迫っているということもあるので、自衛隊の災害派遣要請を、（2月1日）付で行つた」と公表しました。要請先は陸自第9師団で、青森市では2月1日、積雪が過去4番目に多い183センチを観測するなど、記録的な大雪に見舞われ、県内では屋根の雪下ろし等で、これまでに90人以上の負傷者が出来ました。県によると、大雪による自衛隊の災害派遣要請は、2005年以来実に21年ぶりということです。台風でも地震でもなく、雪による災害派遣について、意外と思われる方もある一方、現職時代に北日本の勤務、あるいは一時的な派遣や訓練等により、雪の恐ろしさを経験された方もおられると思います。

◆災害派遣内容と雪による被害

今回自衛隊が行う支援内容は、①自力での避難や除雪が困難な世帯の屋根雪処理 ②被害状況の把握 ③緊急車両や生活同線の確保 となっていますが、当然、災害派遣であるからには公共性や非代替性の担保が必須条件となります。今回はまず自治体として、青森県は青森市を含む15市町村で災害救助法を適用しており、同時に国と県が費用分担し雪下ろし業者への委託費用を分

担、その上で危険を伴い主に人力を用いる部分について自衛隊に要請した、というものです。全国的に見ても2月3日現在の今年度消防庁発表被害状況によると、全国で死者30人、負傷者354人、建物被害12件となっています。過去の統計を見ると、令和2年度には雪害による死者数120人をピークに徐々に低下して令和5年度には22人まで減少しましたが、他方で台風や地震等の自然災害による犠牲者の中での雪害の割合は増え続けており、近年ではその半数近くを占めるまでに至っています。さらにはこの犠牲者が雪崩等山間部における突発事故・災害によるものではなく、市街地における除雪作業中に、しかもこれが毎年発生しているという特徴があります。

◆自衛隊による除雪

今回は災害派遣ということで、名寄駐屯地の第2偵察隊のような雪山専門の山岳（山岳）部隊ではなく、普通科の部隊が中心となり、主に命綱を付けて民家の屋根に上り、最新兵器ではなく基本的に手作業で雪下ろしという実にアナログ的な対応を行っています。因みに飛行場等の広大な自衛隊施設に対する除雪作業については、海自・空自とも除雪隊を臨時で編成し、場合によっては各地から隊員を集めて数か月間除雪の任に就く、という対応を行っています。

▼▼編集後記▼▼

雪の怖さについては西日本中心の勤務経験から、なかなか実感が沸かないというのが正直なところですが、自分の先輩が大湊基地でヘリによる緊急出動時、格納庫横の事務室から飛び出した瞬間に気を失い、気付いたら衛生隊のベットの上だった、という話を聞いたことがあります。扉を開けた瞬間、格納庫の丸屋根の雪がドサッと落ちてきて潰された、という話です。

例によつて、内容に関する責任は全て支部長にあり、特に規則等に定めてあるもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。